技法の変局点

ヴォールテイング

古代のドーム→組積造の文化の産物
⇒西と東に共通する技法へ

900年～ アーチ・ネットとムカルナスの祖形の誕生
⇒900年頃；なぜ、このような変化がおきたのだろう？

1000年～大ドームの指向、ムカルナスとアーチ ・ネットの伝播、リブ、墓塔
ロマネスク、ゴシック建築への影響
アルメニア建築におけるリブ
⇒十字軍の効果

1250年～ ムカルナスの大流行、
ヴォールト技法の伝播（インド、スワヒリ、中国 ）
アルメニア建築でのリブ、錘状屋根の発展
1350年頃 二重殻ドームの成立へ（エジプト、イラン ）

1400年～ ルネサンスのドーム、本格的二重殻ドーム（中央アジア）
アーチネットの復興と傾倒、主流へ （イラン、中央アジア ）
アーチネットのインドへの伝播

1500年～ ロシア正教会でのブルバス・ドーム（木造の造形から？）
1600年～ インドでの宝珠型ドーム
1650年～ バロック建築での楕円形ドーム、幾何学的ドーム、
ムカルナスとアーチ・ネットの混交形式成立

イスラムのヴォールティングとタイル →影響力
技法の伝達 大帝国、世界の動き
商品としての流通範囲 交易圏

タイル

古代エジプトのファイアンス
アッシリアからペルシアへの釉薬タイル →土の文化の産物
⇒アレキサンダー大王の遠征
BC330年～タイル文化の空白期？
⇒バグダードを中心としたアッバース帝国の成立
750年～ バグダードを中心としたタイル文化の復興、ラスター彩、緑釉（中国陶器の影響）

⇒1000年頃；イスラムを奉じるトルコ族の王朝のもとで活性化

1050年～ カーシャーンを中心としたタイル生産

1200年～ アナトリア地方への影響
⇒1250年頃；モンゴル帝国の成立との関係

1250年～ アゼルバイジャン 地方からイラン、中央アジア 、
技法の錯乱、建物全体へ
イギリス（床）、マグリブ（腰壁）でのタイル（なぜ？）

⇒14世紀後半；ティムールの遠征

1400年～ 中央アジア 中心、絵付 技法とモザイク 技法へ収斂
インドへ（モザイク技法）⇒長続きしない
アナトリア 、シリア、エジプト（藍彩）へ（絵付技法）⇒次へ
スペイン（クエルダセカ とクエンカ、多彩技法）
マヨルカへ（クエンカと多彩 ）、イタリア へ（多彩）
⇒鄭和の遠征、大航海時代へ

1500年～イタリアからオランダ（藍彩）へ、そしてイギリスへ
イラン 、中央アジア絵付け技法とモザイク技法が主流
アナトリアでイズニクタイルの開発、
パキスタン、中国では藍彩タイルも生産
⇒17世紀 東インド会社の成立
⇒18世紀 植民地化の時代へ
1750年～ イギリスでの工業生産品が海外へ
カージャール朝、ヒヴァのタイル